

『過去の自分から今の自分へ』

神奈川県

光武館道場

中学3年 石坂蒼空

弱い自分から抜け出したい！何も出来ない自分を変えたい！そう思ったのは、僕が小学校六年生の時でした。

僕は小学校二年生の時に地元の柿生剣友会で剣道を始めました。その頃の僕は周りに流されるように中途半端な気持ちで竹刀を振っていました。剣道だけではなく、学校生活でも強い気持ちを持って取り組むことはありませんでした。そんな僕は、小学校六年生の春、ある大きな病気にかかってしまいました。

突発性血小板減少性紫斑病。血液中の血小板の数が減り、出血しやすくなる病気です。少しの刺激でアザや内出血ができ、血が止まらなくなってしまいます。僕も例外ではなく、気が付いたら体中にアザができ、鼻血が止まらなくなりました。病院の先生に、走ること、学校の体育は禁止、そして身体を打たれる剣道は危険だから絶対に禁止！と言われました。楽しみにしていた修学旅行にも行けず、何も出来ない途方に暮れた日々が続きました。その時僕は、何かを続ける事、続けられる事がいかに幸せか、を痛感しました。

「剣道を辞めます。」と苦渋の決断をした僕に、剣友会の先生は「基本大会ならやれる。辞めるのはその後だ！」と言って下さいました。そこで僕は一つの決心をしました。毎日出来ることから始めよう！出来ることを精一杯努力しよう！それから僕は鏡の前で木刀による剣道基本形稽古法を何度も練習しました。僕に許されたのは形稽古だけだったからです。そんな僕に剣友会の先生は「剣道形は、目に見える形かたを学び、目に見えない血いのちを吹き込み、生きた形かたちを作り上げることだ。そこから得られる理合いがこれからの己の剣道につながっていくのだ。」と教えて下さいました。僕は自分の内側から出てくる気を、つま先や剣先に伝わるよう気を抜かず集中しました。鏡や窓に映りこむ自分に「絶対に治って試合に出るんだ！」と言いつけていました。

その頃の僕の目標は、秋にある基本大会で結果を残す事でした。僕は幸せな気持ちで一杯でした。なぜなら、目標に挑戦出来る事、もう一度大会に出れる事が何より嬉しかったからです。基本大会の結果は、木刀の部、基本打ちの部、どちらも優勝することが出来ました。目標を達成した時の自分の気持ちや、その時の先生や仲間達、両親の表情が今でも僕のやる気の原因力になっています。

病気が完治した今の僕にとって、あの病気は自分を変えてくれたきっかけだったと思っています。すぐに諦めてしまい、なんとなく剣道をやっていた昔の僕とは違います。病気が僕に挑戦する気持ちと、僕を支えてくれた人に感謝する気持ちを教えてくれました。

僕は中学にあがり光武館道場に入門しました。道場では、より実践的な動きの中で有効打

突を意識し、先生と門下生が一丸となって全国制覇を目指しています。そして僕も仲間達に負けぬよう毎日一生懸命、稽古に励んでいます。道場の先生は「スピードだけに頼るのではなく、自分の技を思い切って打ちきれ！」と僕にご助言を下さいます。捨てきった大きな打ち、苦しい時に「もう一本」が打てる剣道を目指していきたいです。

僕は三月に道場を卒業します。今まで僕を、時には厳しく、そして優しく、ご指導して下さいました先生方…本当にお世話になりました。幾度となくかけていただいた数々のお言葉は、これからの僕の人生の支えになります。そして、互いに励ましあい、共に過ごしてきた仲間達へ…卒業して別々の道を歩き出しますが、僕にとってこれからもずっと仲間です。今まで本当にありがとう。

最後に、病気になっても目標を決して諦めなかった小学校6年生の自分へ…剣道を辞めないで続けてきてくれてありがとう。これから僕は過去の自分に恥じぬよう生きていきたいと思います。